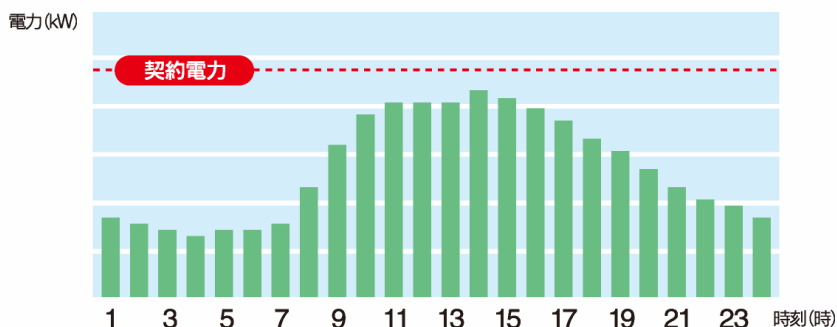


電力のデマンドを監視し、ピークのカット対策を行っていますか？

デマンドコントローラーは、最大需要電力※があらかじめ設定した目標電力を超過しそうな場合、警報を発生して安全上支障のない負荷を一時的に遮断し、目標電力内に抑えるよう制御する装置です。目標電力は、現在の契約電力以下に設定するのが一般的です。また、有効活用することにより契約電力を下げることもできます。

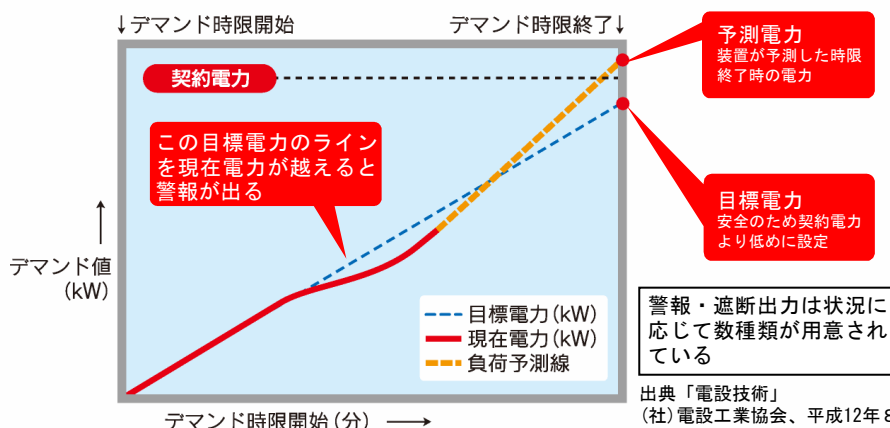
対策例

使用電力日負荷パターンモデル



デマンドコントローラー

電力量計からの計量パルスをカウントして使用電力を測定します。その測定値をもとに、装置内部の演算によって時限終了時の使用電力を予測し、ユーザーが装置に設定した目標電力の値と比較して、使いすぎが予測される場合に警報や負荷遮断、負荷制御信号を出します。装置の基本動作を下図に示します。



効果例

	契約電力	
	1,000kW	500kW
削減金額	約1,990千円/年	約1,000千円/年
投資費用	約6,400千円	約4,400千円
回収年数	3.2年	4.4年

[試算条件]

- ・デマンド監視により契約電力を10%低減できた場合
- ・建物種別：工場
- ・電力契約種別：産業用電力A(6kV)
- ・デマンドコントローラー：E-Energy MES-DM1000×1台(盤タイプ(表示器無し))
- ・制御出力数：契約電力1,000kW 12点 契約電力500kW 6点
- ・投資費用は、デマコン本体(定価×90%)および配線、制御工事費を計上
- ・削減金額および投資費用は、消費税含む。

※最大需要電力：最大需要電力とは、需用電力の最大値であって、30分最大需要電力計により計量される値をいいます。

システム導入のポイント

遮断する負荷は重大な影響を及ぼさない範囲に限られたものにする必要があります。

参考資料

E-Energy (三菱電機製)



デマンドを監視し制御するだけでなく、電力量や力率などを計測し、Web上で接続されたパソコンからリアルタイムに「見える管理」ができます。計測したデータは、原単位管理や帳票作成に役立てることができます。

特徴

1. フィーダ単位（5回路）の電力計測が可能
2. デマンド監視制御による電力料金の低減効果
3. Web上でのエネルギー管理が可能で「見える管理」を実現

[システム構成例]

